

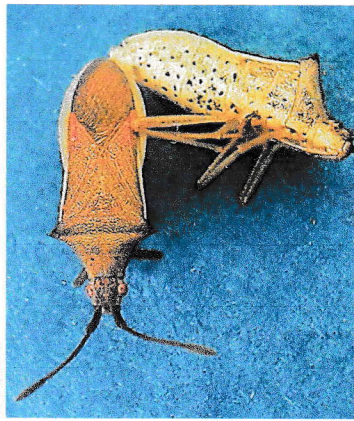
浜町から 風の便り 40

2022 令和 4/2/1. 船橋市浜町 辻 秀 幸

産めよ増やせよ地に満てよ

親子喧嘩で子の側からの定番、「産んでくれと頼んだわけではありません」。子が親に言っているのではない言葉の一つだろう。幸い私には子孫がないのでこの難問で悩まずに済んだ。皆さまはどのように乗り越えましたか。

神様は命を創った。永遠に生きようとする本能を設定した。同時に個々の命はごく短くセットした。では短い個々の命はどうすれば永遠に生きられるのか。工夫努力した結果、多くの生き物がたどりつたのが、雌雄に分かれてペアで協力して次の命をつくり、鎖のようにつなげる方法。



ホンハリカメムシ

(昆虫綱カメムシ目ハリカメムシ科)

左がオス、と思いが責任持てないホンハリカメムシ (ハリカメムシ科) とホンハリカメムシ (ホンハリカメムシ科) というのがいて頭の中は大混乱

2019/7/11.

船橋・浜町 1. 「京葉道路」南法面

私は神のご意志に背いて DNA を残さなかった。しかし全ての命が残せるわけではないようだ、ということをテレビ画面から学んだ。少し安堵した。

魚のオスはメスに受け入れられようと他のオスと争い競う。ペアになれるのはヒトツ。他のオスはペケ。ということもテレビで知った。ほとんどのオスは、メスがより優れた、より強いオスを見つけたための比較対象なのだ。そう考えれば私が存在したのも少しは役に立ったのだらうと神様に顔向けできる。

以前、オス無しで仲間を維持し続けるナカジマシロアリのグループが西日本にいる、という新聞記事の話をした。心細い我が知識によると、多様性が失われ、種の存続が難しくなるのではないかと



オンババタ

(昆虫綱バタ目オンババタ科)

メスが大きくてオスがいまいち種類はよくあるようだ。このババタは対峙この状態で見つかる 写真の状態で交尾中なのかシーナライ

2021/10/14.

船橋・浜町 1. 「京葉道路」南法面

推察する。しかし現に少なからぬグループが数十万年前から生き続けているといふ。でもオス無しではきつとないか不都合があるに違いない。そうでないとオスとしての立つ瀬がない。学者先生もその辺に注目しているようだ。

私が生を享けたこの宇宙は、神様が気まぐれでこしらえたシャボン玉のようなものかもしれない。気まぐれで生まれた我らが宇宙は、そうそう長くは丸くなくていられないのではないだろうか。製作者の気まぐれの一息ではじけるかもしれない。西遊記が描くように、すべては神様の掌の上の出来事なのだろうか。

なんぞという私にはどうしようもないことはほっぽって、浜町公園をぶらつく。たまに、命をつなぐ行為にでくわす。チャンスを探すまいと、そのままの状態で捕獲を試みる。写真に残そうと試みる。

食欲を満たそうとしている時が写す



ナミデントウ

(昆虫綱コウチュウ目デントウムシ科)

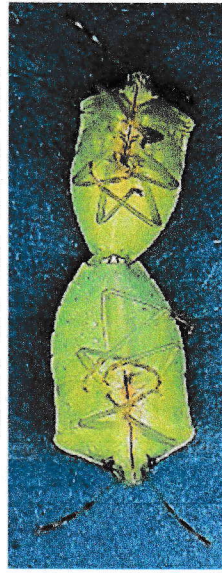
ナミデントウは模様が多様模様に魅惑されたのか 外見ではなく相性がよかったのか

2021/4/11. 船橋・浜町 1. 「浜町公園」

ヤンズだと聞いた。食欲と並び称される本能に励んでいる時もそうであるに違いない。度々出会ったわけではなく、ここに載せた程度だけれど、予想通り割と楽だった。神聖なる種の存続と繁栄をヤバに邪魔しているわけで申し訳ない、と反省はするが、出くわすとやっぱり邪魔したくなる。

採取した場合、我がスタジオでの撮影が終わったら元の草木へ帰すことにしている。撮影の間、静かにポーズをとっていただくため、冷蔵庫で冷えてもらうことが多い。しかし冷えずぎで凍ってしまうこともたびたび。ごめんねとあやまりつつ元の近くの土に帰す。他の生き物の命の一部になればと思ってのせめてもの償い。気休めか。

凍死しちゃったかなと思ったら、脚がピクと動いて次の瞬間飛び上がってそのまま姿をくらました力があった。これも生き延びるために進化の過程で身に付けた能力か。命って強いのか弱いのか。



アオクサカメムシ

(昆虫綱カメムシ目カメムシ科)

ミナミアオカメムシ というのがいてよく似ている。肩の張り出しが強いのか、触角の先端が黒色が褐色か で区別するのはカビ

ミョー

2017/5/11. 船橋・浜町 1. 「浜町公園」